

あぶら そそ 油を注がれたダビデ

だい 第1 サムエル記 16章 しょう



(月 日)

□ だい 第1 サムエル記 16:1~3 サウルのこと^{かな}で悲^{かな}しんでいた

神さまは、エッサイの息子^{むすこ}たちの中^{なか}に、何^{なに}を見^みつけたと言^いわれましたか？

玉 主 土 工 王 三 干

※じつは、サウルは、王^{おう}になった後^{あと}すぐ、神さまのことばに忠実^{ちゅうじつ}に従^{したが}わず、自己中心^{じこちゅうしん}で高慢^{こうまん}になっていきました。だから、サムエルはサウルを王^{おう}にしたことを悲^{かな}しんでいたのです。

(月 日)

□ 第1 サムエル記 16:4~7 うわべ&こころ

人間^{にんげん}は人^{ひと}の「うわべ」を見^みますが、神さまは私^{わたし}たちの「心^{こころ}」を見^みてくださいます。次のうち、「うわべ」に関係^{かんけい}するものは口^{くち}で、「心^{こころ}」に関係^{かんけい}するものは〇でかこんでね。

イケメン	やさしい	ゆうき 勇氣	おしゃれ	ゆうめい 有名	づよ ガマン強い	がっこう せいせき 学校の成績
おも 思いやり	ゲームがうまい	しんせつ 親切	かねも お金持ち	しょうじき 正直	にんき 人気がある	
かわいい	はし 走るのが速い	よ おこ 良い行ない	わす 忘れんぼう	まじめ	かな 悲しみ	

(月 日)

□ 第1 サムエル記 16:8~13 油^{あぶら}をそそがれた

正しい方を〇で囲んで、文章^{ぶんしょう}を完成^{かんせい}させてね。

いちばん下^{した}の弟^{おとうと}がダビデでした。ダビデが羊^{ひつじ}の番^{ばん}から帰^{かえ}ってくると、神さまは、「さあ、(ドレッシング ・ アブラ) を注^{そそ}げ。私^{わたし}が新しい王^{あたらしいおう}に選^{えら}んだのはこの子^こです。」と言^いわれました。サムエルは(コブラ ・ アブラ) の角^{つの}を取り、兄弟^{あな}たちの真^ま中でダビデに(アブラムシ ・ アブラ) をそそぎました。(アブラハムの霊^{れい} ・ 主^{しゅ}の霊^{れい}) がその日^ひ以来^{いらい}、ダビデの上^{うえ}に下^{くだ}った。

※油^{あぶら}を注^{そそ}がれるのは、イスラエルでは、神さまに選^{えら}ばれ、奉^{ほう}仕^しする人^{ひと}として聖^{せい}別^{べつ}されたしるしです。

(月 日)

詩篇^{しへん}103:1~5 **ダビテ**が書^かいた詩^し(1)

神さまが、あなたにしてくださったことに〇をして、神さまをほめたたえましょう。

- () すべての罪^{つみ}を赦^{ゆる}してくださった【3節】
- () すべての病^{やまい}をいやしてくださった【3節】
- () 永遠^{えいえん}の命^{いのち}を^{あた}えてくださった【4節】
- () 恵^{めぐ}みとあわれみをそそいでくださった【4節】
- () 人生^{じんせい}を^よいもので満^みたしてくださった【5節】
- () ゲンキで新^{あたら}しい人^{ひと}にしてくださった【5節】



すばらしい、愛の神さま、あなたをほめたたえます

(月 日)

詩篇^{しへん} 103:6~14 **ダビテ**が書^かいた詩^し(2)

ダビテは、神さまについて「あわれみ^{あわれみ}深く、情^{なさ}け深い。怒^{いか}るのにおそく、恵^{めぐ}み豊^{ゆた}かである。」と言っています。あなたは、神さまのことを、どんなお方^{かた}だと思^{おも}いますか？自由^{じゆう}に書^かいてね。

(月 日)

詩篇^{しへん} 103:15~22 **ダビテ**が書^かいた詩^し(3)

ダビテは、「すべて造^{つく}られたものたちよ。主^{おも}の治^{おさ}められるすべての所^{ところ}で。わがたましいよ。主をほめたたえよ。」と歌^{うた}っています。神さまに造^{つく}られた私たちは、いつでも、どこでも、神さまをほめたたえるのです。



いま、あなたも、心から、神さまをほめたたえるお祈^{いの}りをしましょう。

何でもか・き・こ! ディポジションをして思ったこと・決心したこと、学校やお家であった楽しかったこと・悲しかったこと・・・など何でもかきこもう！先生にも見せて、ひとこと書いてもらおう！